

第1章 富良野市環境保全行動計画とは

第1節 富良野市環境保全行動計画とは

1. 策定の背景

都市化の進展や生活様式の変化に伴い、自動車交通による大気汚染や騒音問題、生活排水による水質汚濁など、いわゆる都市・生活型公害や廃棄物の増大などが環境問題として大きな比重を占めるようになってきました。さらに市街地及びその周辺地域の開発が進むなかで、身近な自然とのふれあいや潤いのある快適な環境に対する市民のニーズが高まっています。

こうした環境課題に加え、地球の温暖化、オゾン層の破壊など地球規模の環境問題も社会的・国際的に大きな課題となっており、多様化した環境問題に適切に対処するには、すべての人々の環境への意識の醸成や、自主的・積極的な環境保全活動への参加により、地域総参加で環境保全・創造に取り組む必要があります。

富良野市は、平成13年3月に富良野市環境基本条例を制定すると同時に、富良野市環境基本計画を策定することで、環境の保全・創造についての基本理念や市民・事業者・市の責務などを明らかにしました。

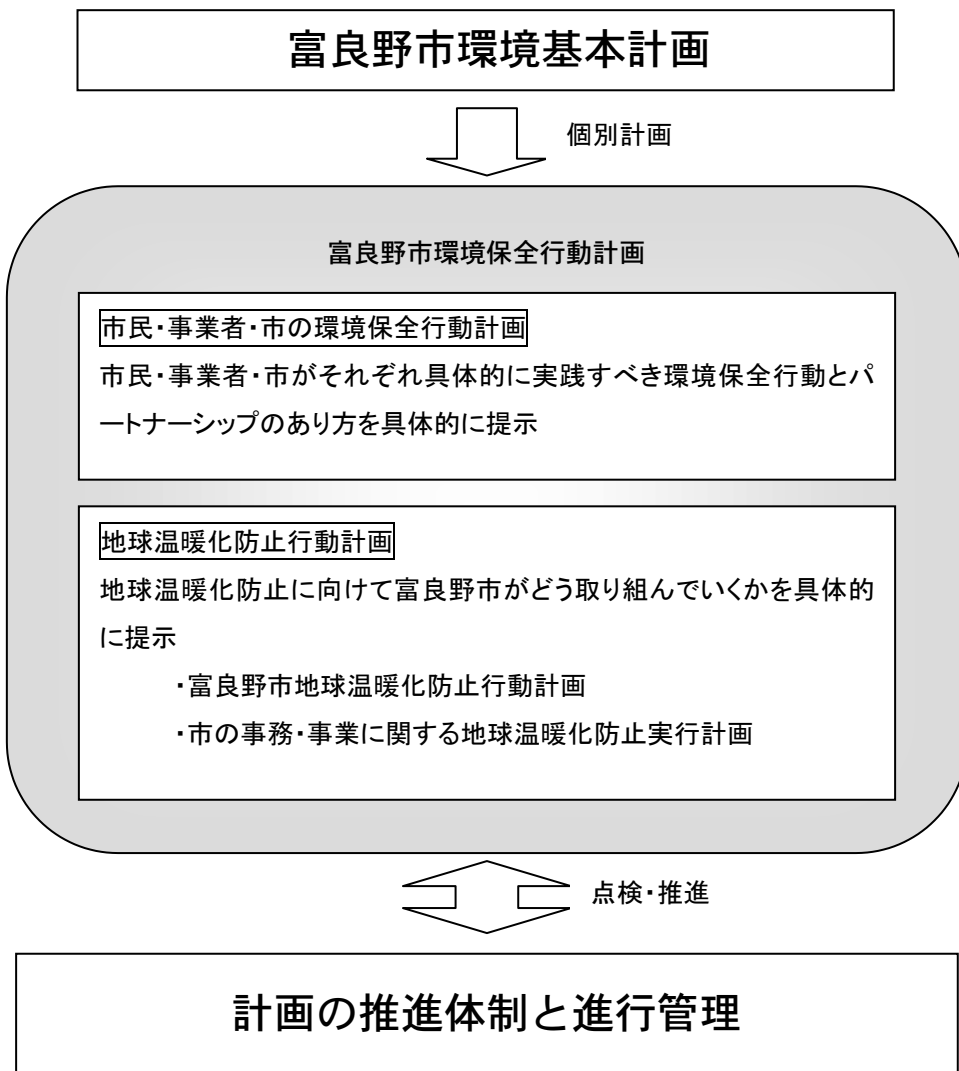
富良野市の良好な環境を確保し、より良い状態で将来に残していくためには、私たち市民・事業者が環境について考え、今の生活や事業活動のあり方を環境に配慮したものに変えていくことが必要です。この『富良野市環境保全行動計画』は、環境に対する関心を高め、環境に配慮するにあたって望ましい具体的行動を示したものです。また、市による市民・事業者の取り組みの支援や、環境に関する具体的な各種施策・事業についても整理し、あらゆる立場の人が富良野の環境保全・創造について考え、取り組んでいくための計画として策定するものです。

2. 富良野市環境保全行動計画の構造と基本的な視点

富良野市環境保全行動計画の基本的な視点

本環境保全行動計画では、富良野市環境基本計画で定めた環境像『「環境と共生」の文化を標榜する資源循環型のまち ふらの』を実現するための5つの計画目標と17の施策目標を、市民、事業者、市それぞれの立場で、日常生活や事業活動の中で具体的にどのような行動を実践していくかを示します。

◆富良野市環境保全行動計画の構造



3. 各主体の役割(市民、事業者、市、観光客)

富良野市の良好な自然や生活環境を守り、次の世代へ引き継いで行くには、すべての人たちがそれぞれの立場で環境保全行動に取り組んでいくことに大きな意義があります。ここでは、富良野市で日々を暮らす「市民」、農林業や畜産業などの各種産業に携わっている「事業者」、環境関連施策を実行する「市」、そして豊かな富良野の自然を目的に訪れる「観光客」のそれぞれの立場で、富良野市の環境保全のために果たすべき行動を示しました。

◆ 市民の行動

日常生活での行動が環境へ負荷をかけていることから、その普段の生活を見直し、行動を少し変えるなどの身近な取り組みを徹底し、地域の環境活動にも積極的に参加します。

◆ 事業者の行動

法令で定められた規制の遵守による公害等の防止対策だけでなく、事業者それぞれの業務特性に応じて、環境保全活動や環境に配慮した事業活動を実施します。

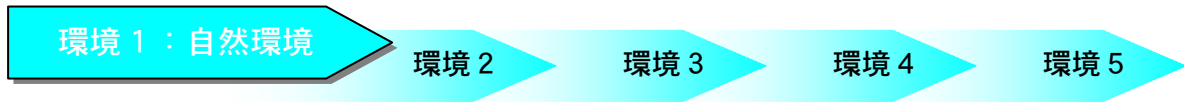
◆ 市の行動

環境の保全と創造に関する具体的な各種施設・事業を実施し、市民・事業者が取り組む環境保全活動を支援するとともに、市の事務・事業によって生じる環境負荷の低減を目的に、庁内における環境保全行動に取り組めます。

◆ 観光客の行動

富良野市の「自然環境」は大切な観光資源であります。は、自然環境の保全と創造の観点から、観光客にも環境への配慮と協力を求めています。

第2節 身のまわりの環境をふりかえる



自然環境の大切な環境的意味…

自然環境とは、主に水、大気、土壌、動物、植物などといった、私たちにとって欠くことができない生態系の要素のことです。富良野市は、十勝岳や芦別岳などの名峰を望み、良好に保たれた天然林である大樹海(東京大学演習林)を有する緑豊かな環境の中にあります。十勝岳南東部を源とする空知川やその支流である富良野川などの水資源にも恵まれ、土地も肥沃です。豊かな自然の恵みを受けて私たちは生活していますが、近年、この生態系のバランスの乱れにより、私たちの生活基盤に影響がはじめてています。

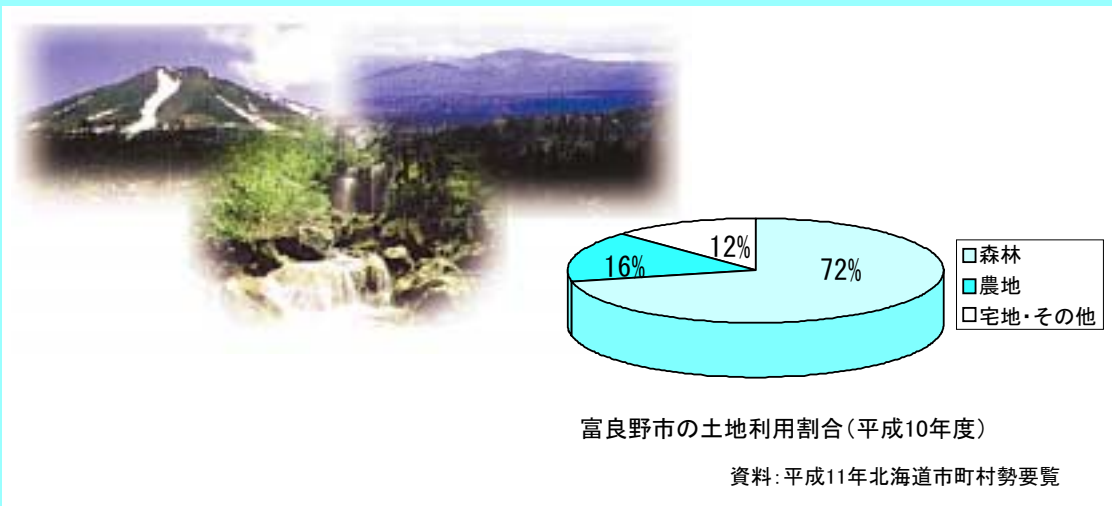
自然環境の現状 [富良野市の自然環境のようすを知っていますか?]

空知川の水質は環境基準を達成していますが、その支流である北1号川、無頭川、基線川、北2線川及び布札別川については環境基準値を上回っています。

土壌は農薬や化学肥料に頼らないクリーン農業の一環として、生ごみや畜ふんの堆肥化が取り組まれており、土づくり対策が積極的に進められています。

本市の森林面積は43,027haと総面積の7割以上を占めており、森林に恵まれた環境といえます。また、寒帯・高山帯自然植生、亜寒帯・亜高山帯自然植生、ブナクラス域自然植生など多様な植生が広がっています。

この豊かな自然の中で、エゾシカ、ヒグマ、キタキツネといった中・大型ほ乳類や鳥類など126種の野生動物の生息が確認されています。



自然環境の問題と課題 [富良野市の自然環境は大丈夫?]

空知川へと流入するいくつかの河川の水質は環境基準値を上回っています。生活排水などが水質汚濁の原因と考えられ、その処理対策などが今後の課題となっています。

今後もクリーン農業の促進や生ごみや畜ふんの堆肥化を進めるとともに、土壌汚染を未然に防ぐための、工場や事業所などを中心とした有害化学物質の適正利用と管理の啓発・指導が必要です。

富良野市の森林は大部分が国有林であるため、国との協力・連携による保全と管理が不可欠です。また、農業後継者問題などにより農地の維持管理が一層困難になることが予想されるため、農業の活性化を視野に入れた総合的な対策が急がれます。

さらに、大気汚染物質の主な発生源として自動車による交通量の増加が挙げられることから、経年的に大気質を観測し、大気汚染の監視を行う必要があります。

動物については、本市周辺において多数の野生動物が確認されていますが、比較的古いデータが多いため、調査データの更新が必要です。

環境保全行動計画の方向 [よりよい富良野の環境を目指して!]

私たちの日常生活や事業活動から流れ出る排水や、行動範囲を広げてくれる自動車からの排気ガス。普段の何気ない生活パターンが環境には大きい負荷となっています。

1人ひとりの排出量は少なくても、積み重なると総排出量は膨大なものになります。裏をかえすと、私たちの心がけ次第では環境への負荷を減らすことが出来るのです。

こういった環境保全の行動に関して、市民、事業者、市のそれぞれの立場で提案していきます。

具体的な取り組み事例などの紹介・提案

平成12年12月、南富良野町立落合小中学校の開校100年記念事業として雪中植林が行われました。従来、真冬に植林する事は不可能とされていましたが、雪の保温効果を利用した雪中植林は、春や秋に植える方法と比べ、枯損率や成長性がよく、効果を上げています。このように、生徒の身近なところで、植林の体験を通して、森林の大切さを理解するとともに、自然環境の保護についての意欲や態度を養い、子供たちの心の故郷づくりを進めています。

環境 1

環境 2 : 省資源・エネルギー

環境 3

環境 4

環境 5

省資源・エネルギーの大切な環境的意味…

省資源とは、資源の節約や廃棄物の減量化、資源の再利用および再生利用することをいいます。例えばリサイクルを徹底したり、繰り返し使える商品を購入したり、過剰包装商品は買わないなどの行動によってごみを減らしたり、節水するなどトータルに資源を大切にすることも含まれます。

また、省エネルギーとは、エネルギーを効率的に利用することによって、より少ないエネルギー消費で大きな効果を上げることです。つまり、電気やガスなどを無駄なく上手に使うことが大切です。

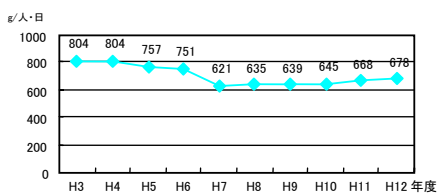
省資源・エネルギーの現状

[富良野市の省資源・エネルギーのようすを知っていますか?]

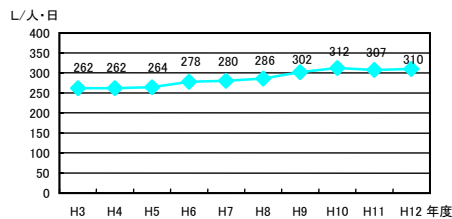
富良野市では、ごみの減量化やリサイクルへの取り組みが盛んに行われています。ごみの分別収集をはじめ、有機肥料や固形燃料の生産も積極的に行われています。なおリサイクル率に関しては細分別化の実施により、62.1%(平成12年度)まで効果を上げています。

省資源については、上水道の給水量(配水量)の推移をみると、わずかながら増加傾向にあります。

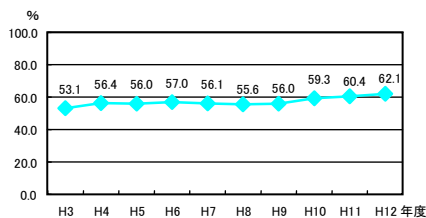
また、主要エネルギーである電灯・電力使用量ともに増加傾向にあり、今後より一層の資源・エネルギー対策が望まれます。



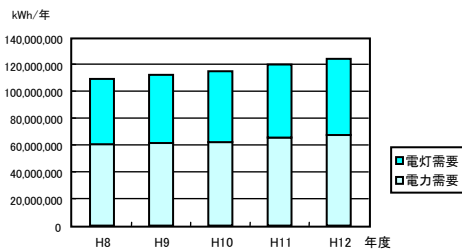
1人1日平均廃棄物排出量



1人1日平均給水量



リサイクル率



電灯・電力需要実績の推移

省資源・エネルギーの問題と課題 [富良野市の省資源・エネルギーは大丈夫?]

ごみとリサイクル

富良野市の平成12年度における1人1日平均ごみ排出量は678gとなっています。これは全国平均より低い数字ですが、平成8年度以降は、わずかですが増加傾向にあります。今後、新分別収集の推進により、ごみの減量化とリサイクル率の向上を図ります。

資源・エネルギー

上水道の給水量、電灯・電力需要ともにわずかながら増加傾向にあることから、温室効果ガス対策も視野に入れた総合的な資源・エネルギー対策が必要となります。

環境保全行動計画の方向 [よりよい富良野の環境を目指して!]

私たちが毎日の生活を営む上で、ごみを出したりエネルギーを使ったりするのは欠かせないことですが、1人ひとりの心がけで大きく改善することが出来ます。

それには私たちのこれまでの“使い捨て文化”を見直し、物を大切にする環境づくりが必要です。また、自然エネルギー・未利用エネルギーなどを活用できる循環型社会を築くために、市民、事業者、市がそれぞれの立場で出来ることを考えていきます。

具体的な取り組み事例などの紹介・提案

節水の場合…

- ・食器洗いは、流しっぱなしだと110リットル、ため洗いだと20リットルで済む
- ・洗車はホースだと100リットル使用、バケツだと30リットルで済む

このほか、

- ・洗顔・歯磨きでの水の流しっぱなしをやめる
- ・必要がない水まきをやめる
- ・風呂の残り湯を洗濯に利用する

環境1

環境2

環境3：景観・身近な緑、音・かおり環境

環境4

環境5

景観・身近な緑、音・かおり環境の大切な環境的意味…

景観とは、人を取り巻くその地域の自然や生活環境、歴史、文化、産業などの人間活動のありさまを総体的に捉えた環境のようすのことです。特に、良好な景観とは、これら地域特性を活かし、自然との共生を実現した豊かな環境が感じられる風景のことです。また、見た目だけではなく、音や香りなどの要素も良好な景観を形成する大切な要因となっています。このように、そこに住む人や訪れる人が喜びや優しさ、安らぎなどの感性を共有できることが理想の景観といえるでしょう。

富良野市の景観・身近な緑、音・かおり環境の現状

[景観・身近な緑、音・かおり環境のようすを知っていますか？]

①景観

富良野市には、遠方にそびえ立つ山岳地帯を背景として、その裾野には森林や農地などが広がり、豊かな自然景観を形成しています。また、大雪山国立公園や富良野芦別道立自然公園などを有し、これら森林や農地が本市の主要な観光・景観資源として人々を魅了しています。

②身近な自然

富良野市には、原始ヶ原、麓郷の森、鳥沼公園、東大演習林、ラベンダーの森など、市民と観光客が大勢訪れるレクリエーション地が各所に分布しています。

市街地の様子を見ると、本市の都市公園は53ヶ所(33.56ha)整備されています。また、1人あたりの都市公園面積は18.84m²となっており、全国平均7.9m²を上回っていますが、北海道平均26.7 m²を下回っています(平成12年度現在)。

③音・かおり

平成13年度に環境省が実施しました、地域の自然や文化に根ざし、将来に残したい香りのある風景100選に富良野市周辺(ふらののラベンダー)が選ばれました。

生活環境における苦情件数としては、騒音・振動が6件、悪臭が4件の苦情が寄せられています(平成2～10年度)。

富良野市民の好きな景色や景観アンケート結果

	1位		2位		3位	
市民	山なみ景観	33.0%	丘陵畑景観	21.6%	森林景観	17.9%
小学生	山なみ景観	30.6%	森林景観	22.0%	水辺景観	18.7%
中学生	山なみ景観	29.2%	水辺景観	19.3%	森林景観	19.0%

資料：富良野市「富良野市環境基本計画」

富良野市の景観・身近な緑、音・かおり環境の問題と課題

〔富良野市の景観・身近な緑、音・かおり環境は大丈夫？〕

市民アンケートで身のまわりの環境で悪いところを尋ねたところ、美観に関する回答が多く、その理由として「犬猫の糞が多い」「ごみなどが投棄されている」「タバコ・ごみのポイ捨てが目立つ」などが多く寄せられています。このことから、市民や事業者、観光客などのモラルの向上を図る必要があります。

現在のところ、騒音・振動、悪臭に係る測定は行われていませんが、大気汚染や騒音・振動の移動発生源である自動車の利用が年々増加していることから、今後、大気質などの測定が必要となります。

環境保全行動計画の方向〔よりよい富良野の環境を目指して！〕

市民・事業者・市のそれぞれが「ふらの景観ガイドプラン」に基づき、景観形成に向けて取り組みが必要となります。

富良野市は豊かな緑で囲まれています。市街地は樹木や花が少なく、緑の連続性が分断されている状態です。今後、さらに都市公園や公共施設、道路の緑化を進めるとともに、民有地の緑化も支援するなど、市街地の緑地確保・ネットワーク化を図ることが必要です。

騒音・振動・悪臭については、社会行動によって生じるもので、すべての人が加害者であり、被害者でもあります。よって、市民・事業者・市がそれぞれ対策を講じながら連携し、観光客への啓発も併せて検討する必要があります。

具体的な取り組み事例の紹介・提案

環境省では、近年増加している生活型悪臭問題を解決する事業の一環として、「かおり環境」という新しい考え方を取り入れ、「身近にあるよいかおりを再発見し、かおりに気づくことを通して身の回りにある様々なにおいを意識し、不快なおいの改善に積極的に取り組む地域の活動」を促進しています。そこで、よいかおりとそのもとである自然や文化「かおり環境」を保全・創造するため、全国から「かおり風景100選」事業を実施しました。富良野市をはじめ周辺の町一帯が「ふらののラベンダー」として選出されました。選出理由は、ラベンダーを観光資源として活用しており、訪れる観光客はこれらの風景と香りのために心やすらぐひとときを味わうことができるからです。今後ともこの資源を有効に利用・保全し、独自の美しい景観を保全することが望まれます。

市民と事業者の行動指針と市の行動計画を見よう

(44～55 ページ)

環境1

環境2

環境3

環境4：地球環境

環境5

地球環境の大切な環境的意味…

「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」によると、すでに地球温暖化の兆候が観測されており、温暖化対策が実施されない場合、2100年には地球の平均気温が2℃上昇し、海面が約50cm上昇すると予測されています。

また、気候変動により、洪水が多発する地域と干ばつが続く地域が発生したり、海面の上昇による国土の水没、農作物の収穫量の変化、疾病の発生などが地球規模で生じることが予想されており、将来の世代に与える影響が極めて大きいといわれています。

富良野市への影響 【富良野市にどのような影響が起こるのでしょうか？】

①降雪量の変化

IPCC や各国の政府は、これまで地球温暖化の影響を予測するための様々な気象モデルを開発していますが、冬季間の降水量(降雪量)の変化については、モデルの種類により-15%~+11%と予測結果の幅が大きく、降雪量が減少する可能性と増加する可能性が指摘されています。

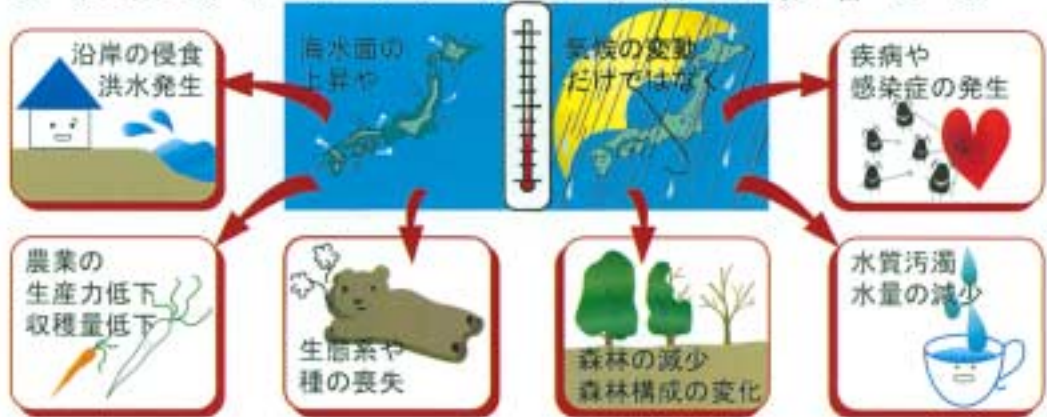
②農産物への影響

小麦の収穫量は日本全域で減少しますが、トウモロコシは北海道で増加します。また、コメの収穫量は北日本で増加しますが、平均気温の上昇が4℃を超えた場合には、東北を除く日本全域で収穫量が減少します。

③自然環境への影響

気温の上昇に適応できない動植物は絶滅する恐れがあり、植生が変わり生態系に影響を及ぼす恐れがあります。

気候変動により、起こり得る影響とは…



富良野市の地球環境への取り組みの現状と課題

ごみ減量化・エネルギー対策の必要

富良野市におけるごみの減量化・リサイクル対策への取組は積極的で、全国的にも高レベルにあります。昨年の10月から、14種分別による分別収集を実施し、有機肥料の生産、固形燃料の生産、有価物の回収等を積極的に推進しています。

平成12年度の1人1日平均ごみ排出量は678gと全国的に見て低い数字となっています。しかし、近年、ごみの減量についてはやや頭打ちの傾向が見られ、平成8年度以降はわずかながら増加傾向に転じています。今後は、リサイクル以上にまずごみの減量化対策を行い、エネルギー対策にも積極的に取り組んで行く必要があります。

環境保全行動計画の方向 [よりより富良野の環境を目指して!]

ごみ減量化・エネルギー対策は、一人ひとりの市民や一つひとつの事業者が取り組むことなしには達成し得ないものです。

私達一人ひとりが日常の取組の中で、省資源・省エネルギー及びリサイクルなどの取組を行うことが重要になります。市はこれら、市全域の省資源・省エネルギー活動に対し支援及び情報提供を行い、より効率的な循環型社会を構築することが求められます。

具体的な取り組み事例の紹介・提案

1世帯が1年間で削減できる二酸化炭素の量を、炭素換算した重量(C-kg/世帯・年)として示しました。

○住宅づくり	
カーテンやブラインドなどを上手に使用して冷暖房効果を高める	2.9
○家電の使用	
省エネルギー型冷蔵庫を使用する	16.9
炊飯器の保温時間を1日7時間減らす	22.3
電気ポットを長時間使用しない時はコンセントからプラグを抜く	10.84
○照明	
白熱電球から電球型蛍光灯ランプに付け替える	10.2

市民と事業者の行動指針と市の行動計画を見てみよう

(56～71 ページ)

環境1

環境2

環境3

環境4

環境5：環境への意識・行動

環境への意識・行動の大切な環境的意味…

市民1人ひとりが自分たちの環境について体験し、学習し、考え、行動できる機会を増やし、みんなの環境への意識を高めることが大切です。それには、常に環境に関する情報にふれるために、いろいろな環境情報を素早くキャッチし、自らが行動することが必要となります。また、さらに環境保全のための活動範囲を広げるためには、情報のやりとりによる環境情報ネットワークづくりが大切になってきています。

環境への意識・行動の現状【富良野でのようすについて知っていますか？】

①身のまわりの環境への意識

市民の約3割が身のまわりの環境を「良い」としており、その理由としては、公害がない、自然が豊か、景色が良いがあげられています。その反面、ポイ捨てなどの美観やマナー、騒音、空き地の荒地化などの理由から、市民の約2割近くが身のまわりの環境が「悪い」としています。

②環境保全活動への参加

環境保全活動に積極的に参加したいと考えている市民が約7割もいるのに対し、実際に活動している市民は3割弱であることから、意識は高くても活動への参加が少ない傾向がみられます。

③環境学習・環境教育

東大演習林開放事業や中央公民館講座を通して自然観察などの環境学習の機会が市民に提供されています。また、学校においても、自然観察やボランティア清掃活動などの環境教育が行われています。

④環境情報

市の広報やパンフレットの配布、講演会やイベントの開催によって環境情報が提供されています。

(資料: 富良野市環境基本計画基礎調査報告書アンケート調査結果)



環境への意識・行動の問題と課題 [みんなの環境への意識・行動は大丈夫?]

市民の半数以上が地球環境や将来の環境について危機感や興味を抱いていますが、実際に行動している市民は一部のようです。事業者についても同様で、環境保全の重要性については認識していますが、コストなどの理由で環境保全活動に取り組めない事業者が多いようです。また、現実には、日常生活において不可欠な暖房や自動車の利用自粛、環境税などの経済的な負担に消極的な姿勢がみられます。

環境教育については、しつけと同様に子供の頃からの教育が必要であると多くの市民が感じており、さらなる環境教育プログラムの充実や環境情報の提供が課題となっています。

環境保全行動計画の方向 [よりよい富良野の環境を目指して!]

環境保全への自主的な取り組みを推進するには、子供の頃からの環境教育や各種イベントへの参加、環境情報に接する機会を増やすなど、日頃から環境への関心を抱かせるような取り組みが必要になります。そこで、実際に環境保全に取り組んでいる市民・市民団体・事業者・市それぞれが情報を発信し共有するなど、お互いに協力し合う体制を確立することが求められています。

具体的な取り組み事例の紹介・提案

次々と姿を消す里山をどうすれば守れるのか―。こう問いかけながら、作家らでつくる自然文化創造会議(CCC)倉本聰議長は2001年6月11日、富良野市中御料の富良野演劇劇場で「里山シンポジウムin富良野」を開きました。このシンポジウム開催のきっかけとなったのは、俳優・脚本家養成の富良野塾(同市西布礼別)近くの山林約1haで、シラカバなどの伐採が計画されたことから始まります。この出来事をモデルに、民有林を守るための知恵を出し合おうと企画したシンポジウムです。

倉本さんは「森林は空気の浄化、水の保全という公共的機能の意義が見直されている。しかし、民有林保有者の大半は農業者で、林業に絶望し、伐採でわずかな収入を得ている。そこは林業労働者の仕事の場でもある。里山を守りながら、どうすれば民有林保有者に公共価値の対価を払い、林業労働者は生活を維持できるのか考えたい」と問題を投げかけました。

(資料:北海道新聞 2001年6月5日付夕刊)

市民と事業者の行動指針と市の行動計画を見てみよう (72~83 ページ)